

児童の自己有用感を高めるための指導の工夫

－「たてわりスマイルカード」を活用した互いに認め合う活動を通して－

特別研修員 生徒指導・教育相談 荻野和明（小学校教諭）

【児童の実態】

- 自分の意見に自信が持てず、全体の前で発言することが消極的な児童が多い。
- 人の役に立ったと実感できていない傾向がある。

【小学校学習指導要領 特別活動の目標】

「互いのよさや可能性を発揮しながら集団や自己の生活上の課題を解決すること」

【平成29年度学校教育の指針】

「自己有用感をはぐくむ、学校・学級づくりの推進」

【目指す児童像】 自分に自信を持ち、自己有用感が高い児童

実践①

だれもが楽しめるたてわりレクを考えよう



児童の司会による児童主体の話合い活動



ロールプレイ、掲示物等の活用



<振り返り>

「たてわりスマイルカード」へ自他の頑張りを記入するとともにスマイルシールを貼り合い、互いのよさを認め合う

互いのよさを認め合い、自己有用感を高める指導の工夫

【手立て】

- 自己有用感を高めるための「たてわりスマイルカード」の充実
- 児童主体の異年齢集団の活動の充実



同級生から：
1年生のことを考えながら行動し、自分の役割もしっかりやっていたのですごく良かったね。

1年生から：
ゲームでは負けて悔しかったけど、とても楽しかった。またやりたい。

これからは休み時間などで、1年生に積極的に話し掛け、触れ合っていきたい。

先生から：
1年生のために一生懸命頑張っていましたね。賞品を用意するなど工夫されていて良かったです。ありがとうございます。

実践②

1年生とふれ合おう



異年齢集団の活動に必要な物を考え、工夫を凝らして準備



1年生の目線になって活動

いろいろな遊びができて楽しかった。6年生ありがとう。



<振り返り>

1年生・同級生・先生から、「たてわりスマイルカード」へ感謝や称賛する言葉、頑張りを認めるスマイルシールを全員がもらう

寄添う・認め合う・励まし合う

< 成果〇と課題● >

〇「たてわりスマイルカード」を活用した互いに認め合う活動に継続して取り組んできたことで、クラス内で助け合う場面が増えたり、休み時間などでも下級生の面倒を見る姿が見られたりするようになったことから、児童の自己有用感を高めることができたと考える（アンケート：93%の児童が『仲間の役に立つことができた』と回答）。

●児童の自己有用感は継続した成功体験が必要であると考え、今後も教職員間の連携を深め、児童一人一人が活躍できる場をつくり、互いの頑張りがやよさを認め合う活動を継続的・組織的に行い、児童の自己有用感をさらに高めていきたい。